平成29年8月11日(金・祝) 公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター

# 長岡京跡右京第 1159 次調査 現地説明会資料

# 1 はじめに

本調査は、長岡京駅前線の拡幅工事に先立って実施された発掘調査です。調査地は、長岡京跡 右京六条二坊六町・十一町域にあたり、六条条間小路と西二坊坊間小路という長岡京の主要な条 坊道路の交差点を発見しました。このことによって、長岡京の条坊道路や宅地の様子が明らかと なり、平安京の礎となった「長岡京」の解明に向けて大きな成果を得ることができました。

調査地付近は西から東へと傾斜する緩扇状地に位置し、周辺で実施された発掘調査によって縄 文時代~中世に至る開田遺跡や古墳時代後期の首長墓である塚本古墳の存在などが判明してい ます。また、長岡京期には、右京六条二坊五町~十二町の範囲で条坊道路をはじめ、建物や柵、 区画溝などの様々な遺構が発見されています。

調査期間: 平成 29 年 7 月 3 日~9 月 20 日 (予定)

**調査面積**: (東調査区) 約 310 ㎡ (予定)

(西調査区) 約 380 m<sup>2</sup> (予定)

長岡京は、桓武天皇によって造営された都で、784年(延暦3年)11月11日に奈良の平城京から遷都されました。都の範囲は、 東西4.3キロメートル、南北5.2キロメートルにおよび、長岡京の政治の中心である大極殿、朝堂院などは向日市域に、「市」 などの経済の中心は長岡京市域に置かれていました。

#### 2 調査の概要

本調査では、長岡京に伴う六条条間小路と西二坊坊間小路の交差点が発見されました。以下に 主な遺構を紹介します。

#### (1) 主な検出遺構

## 東調査区

### ①六条条間小路 南側溝 (SD10·SD18)

東調査区で検出された六条条間小路の南側溝は、西二坊坊間小路と交差します。西二坊坊間小路の両側溝にそれぞれ T 字状に連結することが判明しました。南側溝の東側(SD10)では、幅約 1m、深さ 0.19m の規模であるのに対し、西側(SD18)では、幅 2m 以上、深さ  $0.5\sim1m$  でした。

### ②西二坊坊間小路 東側溝 (SD09) · 西側溝 (SD05)

西二坊坊間小路はこれまでの調査成果から、東西で側溝の規模が異なることが分かっています。今回の交差点付近においても、同様に東側溝(SD09)が幅約 1.1m、深さ 0.15mであるのに対し、西側溝 (SD05) は幅約 3.5m、深さ約 1.2m であり、形状や規模に大きな違いが見られました。

#### ③掘立柱建物 (SB11)

右京六条二坊六町の宅地で確認された東西 3 間×南北 2 間の建物です。東西約 6.3m、南北約 4.3m の東西棟になるものと思われます。

# 西調査区

## ①六条条間小路 南側溝 (SD03)

六条条間小路の南側溝が推定されている地点で、幅 1.5~2.2m、深さ 0.1~0.3m の溝 (SD03) を東西約 17m 分確認しました。溝 SD03 の上部は、中世以降の耕作や長岡京期 以降の溝で削平されており、非常に浅い埋土が残存する程度でした。

## (2) 主な出土遺物

本調査では須恵器や土師器といった土器片や埴輪、弥生土器などが出土しました。貴重なものとしては、西二坊坊間小路西側溝から、須恵器杯の底面に「井」と書かれた墨書土器が1点発見されました。また、同じ溝からは、非常に珍しい土師質の羽釜の支脚も出土しています。

#### 3 まとめ

今回の調査では、東西方向に真っ直ぐのびる六条条間小路の南側溝と、南北にのびる西二坊坊間小路の東側溝・西側溝を確認し、長岡京の構造を復元する手掛かりを得ることができました。 以下に主な成果をまとめると、

- ①六条条間小路と西二坊坊間小路の交差点の発見により、条坊道路の規模や構造がわかりました。
  - ・西二坊坊間小路の路面は幅 6.5m であり、通常の小路よりも幅が狭いようです。
  - ・この交差点は、南北道路が東西道路に優先されています。
- ②西二坊坊間小路の西側溝は、他の地点で見つかっている条坊側溝に比べて特に規模が大きいという特徴があります。その理由については慎重に検討中ですが、この付近に水が流れ込みやすい地形であった可能性や、すぐ南側には長岡京の「西市」が想定される場所があり、市周辺での水運との関係なども考えられます。仮に、幅の広い条坊側溝が水路としてつくられたものであれば、道路や水路を単純に碁盤目状に区切るのではなく、「市」などの公共施設の配置に合わせて、計画的に整備していると言えます。
- ③六条条間小路は、東の方が残りが悪く、西の方が側溝の幅も広いことがわかっていました。 今回も他所で検出される一般的な残存状況と遜色ない検出状況でしたが、東調査区の西側で検 出された南側溝と、西調査区で検出された南側溝では深さに大きな違いがあります。このこと から、条坊側溝は旧地形に合わせて階段状に掘られていた可能性があり、西調査地付近では、 少なくとも 50 cm以上は高い地盤(盛土等)であったことが想定されます。
- ④これまでの周辺の調査成果を踏まえて、長岡京期の付近の様子を復元すると、六条二坊十一町の宅地利用は町内をさらに半町(約60m)に区画した土地利用が考えられます。これは六条条間小路の南側溝の残存状況から推定される地盤面高低差や、右京第1117次調査で確認されている宅地面の段差と区画溝などから想定されます。宅地内の区画と条坊道路が合わせて整備された可能性があります。

長岡京は、条坊制と呼ばれる区画割りによって碁盤の目状に整備されていました。幅 24mの大路(おおじ)で囲まれた大区画を「条(じょう)」と「坊(ぼう)」と呼び、さらにこれを幅 9mの小路(こうじ)で 16 分割したものを「町(ちょう)」と呼びます。 一町は約 120m四方の敷地で、宅地の基本単位となるものです。坊は朱雀大路を中心に右京、左京それぞれに一坊から四坊まであります。

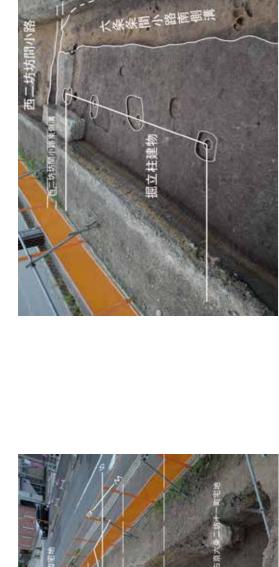
久御山町

調査地位置図

右京六条二坊六町

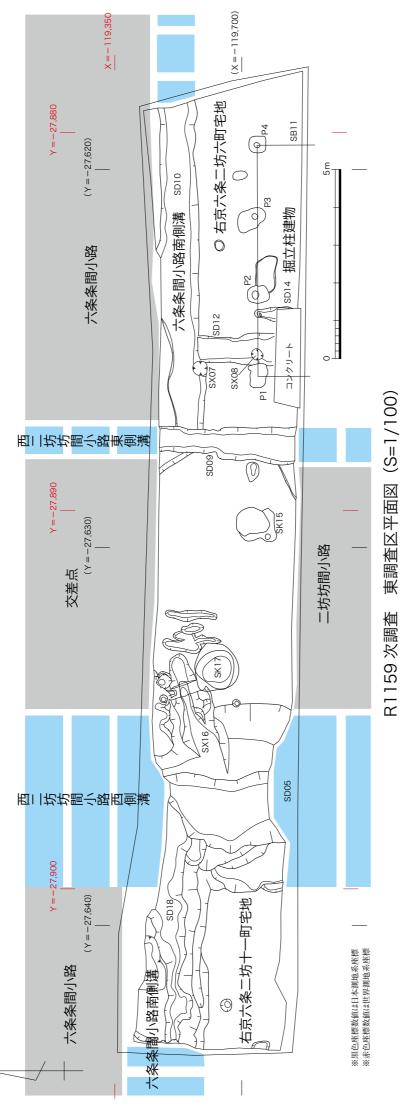
調査地周辺の調査状況 (S=1/1000)

西二坊坊間小路



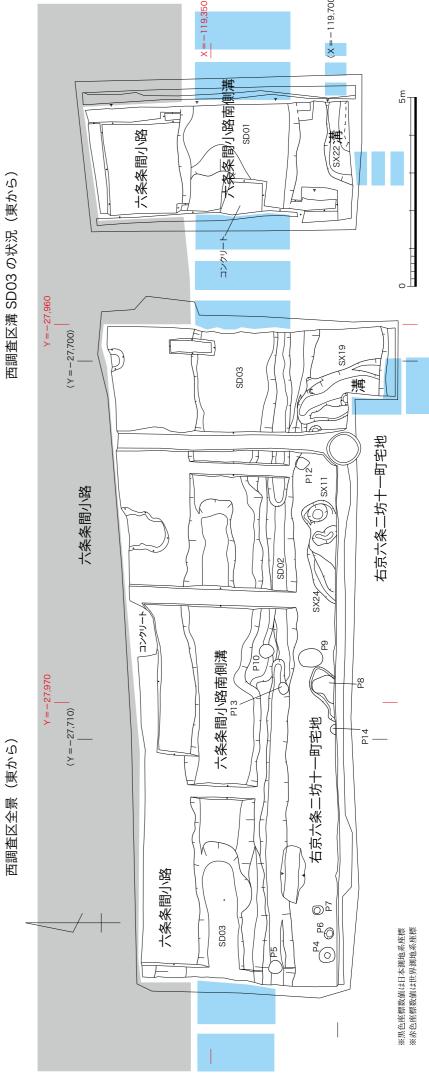
東調査区東半の状況 (東から)

東調査区全景 (西から)



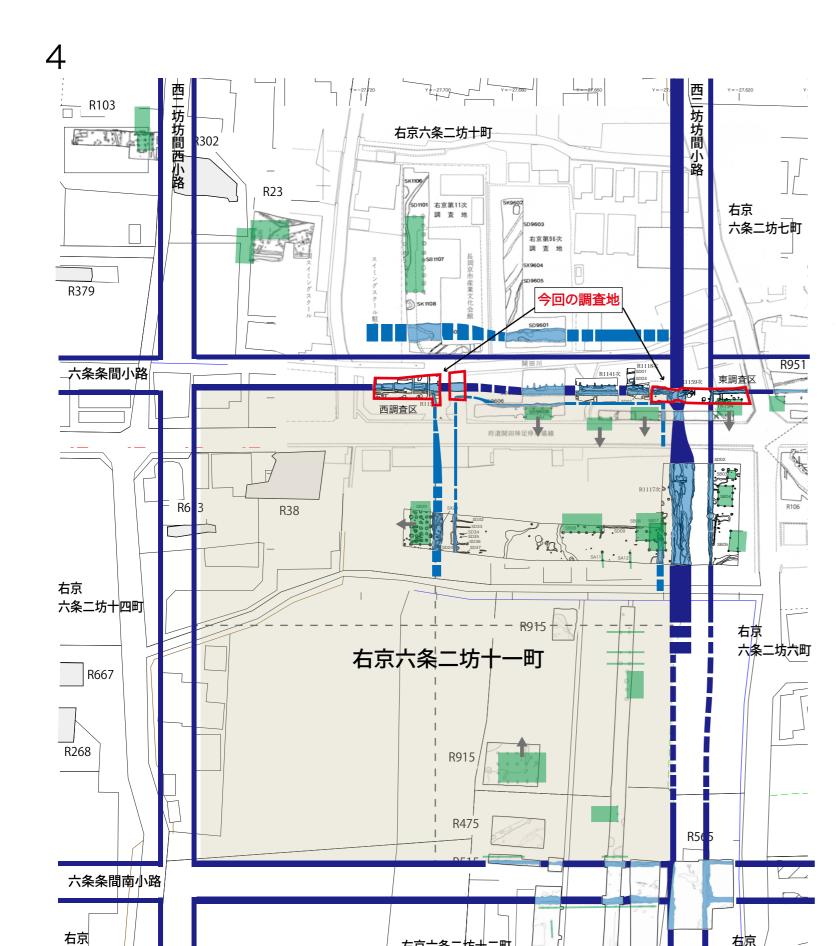
(S=1/100)





3

R1159 次調查 西調査区平面図 (S=1/100)



◆ =建物の出入口の向き

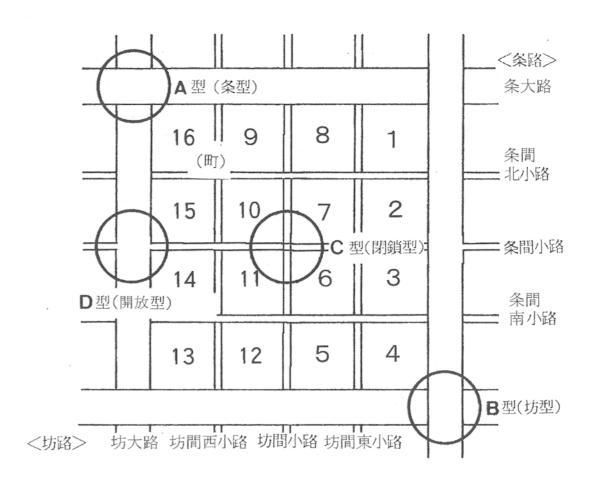
TT R864

R475

右京六条二坊十一町の宅地利用の様子(S=1/1000)

六条二坊十三町

右京六条二坊十二町



条坊交差点分類模式図

**基岡市冬坊交差占交差状況統計表** 

<b>长</b> 间尔米切义左总义左 <b>从</b> 沉机 <u>司</u> 农					
優先道路	大路 対 大路	<b>条大路</b> 対 坊小路	条小路 対 <b>坊大路</b>	小路 対 小路	合計
A (条型)	7	7	2	7	23
B(坊型)	5	0	12	5	22
C(閉鎖型)	1	0	0	3	4
D(解放型)	0	0	0	2	. 2
合計	13	7	14	17	51

2017年7月岩﨑誠統計